

地域の労働者と青年の結集をめざす

横三労連新聞 第126号



2017年3月8日発行

docomo

au/ソフトバンク

<http://www.yokosan.info/index.htm> e-mail: yv2t-tnk@asahi-net.or.jp

〒238-0006 横須賀市日の出町2-9 046-823-0210 (内線433)



拡大幹事合宿報告第3回 三戸友澄と承久の乱

春の県民集会に1000人超参加!

3/5(日)、横浜公園で「かながわ県民集会」が開かれ、1000人を超える参加で成功しました。集会では、「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」の高田健共同代表、日本共産党のはたの君枝衆院議員、民進党の真山勇一参院議員が挨拶し、自由党の樋高剛県連代表がメッセージを寄せました。集会後、青年たちのコールの先導で、赤レンガ

を通して桜木町までデモ行進しました。「プラカード・デコレーションコンテスト」も行われ、最優秀賞は、可愛い帽子を皆でかぶった全国一般(保育士さんたちは可愛かったです)、優秀賞は神奈川県建や県職労連などです。賞金は、優秀賞で5千円と聞きました。可愛いといえば、優秀賞に選ばれたユーコープ労組の女性たちも、魔女のような可愛いコスチュームでした。

三浦市の三戸海岸の近くの小高い丘の上に「三戸友澄墓所」がある。敷地内には三戸友澄(みとともずみ)と家来の墓と伝えられる五輪塔と大正10年(1921)に建設された「招魂碑」がある。三浦基次子爵の書とされる。三戸友澄という人物は中世の豪族三浦一族で、三浦義澄の子である。『新編相模国風土記稿』によれば、「三浦介義澄の子に三戸十郎友澄あり、承久の乱に戦死す、在名を名乗こと知べし」とある。また、北村包直『三浦大介及三浦党』(大正14年)によれば、「三戸十郎友澄(別当義澄の子)は、兄胤義の密書に接し、内田次郎、庄司三郎、海戸五郎の三士を従へて上洛し、胤義と、共に勤皇軍に属して戦死した。三士は、友澄の首級を携へ、郷里に返り葬つた。」と記されている。承久の乱とは1221年(承久3)朝廷と鎌倉幕府との間に起こった争乱である。この時三浦一族は、当主・義村は鎌倉方に、弟の胤義・友澄は後鳥羽上皇方について、一族同士が戦った。結局鎌倉方が勝利し、胤義は自決、友澄は湖南の戦いで討死したとされている。三戸友澄の存在については、『吾妻鏡』にも『承久記』にも記されておらず、謎が多い。戦前の皇国史観では、上皇方についてということで「忠臣」扱いされてきた。三戸友澄の存在については資料による検証が必要であるとともに、彼が何故に上皇方として戦ったのかを探求していかなければならない。

公務公共一般横須賀支部 A・H



学習協の新春古典講座、盛会!

今年の新春古典講座は、マルクスの「フランスにおける内乱」でした。1871年、労働者階級の世界最初の権力をうちたてたパリ・コミュンを題材にした文献です。参加者の多くが、パリ・コミュンとフランス革命を混同している中、講師の萩原伸次郎先生は、同時代の日本の歴史に触れながら、迫力ある講義を展開しました。受講者たちは、革命後のフランスが、2度にわたり帝政に戻ったことを知り、その中で誕生したパリ・コミュンと、その弱点を学びました。質疑の中では、この文献が書かれた時期が、マルクスが未来社会論を発展させた時期であったことも知りました。